

● ばか苗病・いもち病の防止対策 ●

近年「ばか苗病」（俗に言う男苗）の発生が散見されます。育苗時だけでなく移植後に発病して胞子を飛散している例も見られております。また、いもち病の発生も一部で見られます。これらの病害は種子や稲わらが感染源となります。発生を防ぐために、適正な対策をとりましょう。

ばか苗病は防げる！ 実際にあった多発事例から学ぶ

× 自家採種した種子を純正種子と同じ機械に入れて浸種や催芽をした → **激発**

→ **対策** 自家採種をしない。同じタンクや機械に入れない

→ **対策** 循環式催芽機では催芽時に食酢を入れる

× 種子の保管や催芽時にムシロや麻袋を使っていた → **多発**

→ **対策** 感染源になる資材（稲わら、ムシロ、麻袋など）は使用しない

× 育苗ハウスにもみがらを敷いていた、または飛散していた → **多発**

→ **対策** 育苗にもみがらや稲わらを使用しない、飛散させない

× 納屋にもみがらやもみすりの粉じんが飛んでいた → **多発**

→ **対策** 種子を保管・予措する場所をしっかりと選ぶ

→ **対策** 予措作業をする場所は作業前にしっかりと清掃を

- ・ 温湯消毒種子は無菌状態であるため、消毒後の汚染には弱いですが、種子の取扱には十分注意しましょう。
- ・ 病気の発生が前年ほ場に全く見えなかったからと言って、感染していないとは限りません。多発事例では、ほとんど前年は発生がない状態から急激に増えております。
- ・ 大発生すると周辺農家にも迷惑をかけます。自家採種や安易な作業は大変危険です。十分注意しましょう。
- ・ 北海道米麦改良協会より配布されている「水稻生産農家に皆様へ『ばか苗病』撲滅に向けた取組にご協力をお願いします！」もあわせて参照ください。